

SEMINAR HOUSE NEWS NO.191

セミナーハウス・ニュース No.191 / 2016年12月28日発行

 大学セミナーハウス
INTER-UNIVERSITY SEMINAR HOUSE

公益財団法人大学セミナーハウス

192-0372 東京都八王子市下柚木1987-1

電話：042-676-8511 / FAX：042-676-1220

ホームページ：<https://iush.jp/>

開館50周年記念事業の報告

Dining Hall やまゆり竣工
新施設の建設・既存施設の大規模修繕等

千人会通信

千人会会員の皆様からの声をお届け

開館50周年！ 記念会開催

記念会開催報告・館長挨拶

宿泊事業報告

宿泊実績などを掲載

館長室から

開館50周年を迎えて

セミナー事業

2016年下半期の開催セミナー報告等

法人ニュース

第21回理事会報告(平成28年度第2回)



開館50周年記念会開催報告

公益財団法人大学セミナーハウスは、2015年7月5日(日)に開館50周年を迎え、新食堂棟の建設など記念事業を展開してまいりました。



▲大学セミナーハウス 鈴木 館長

1年遅れとなりましたが、2016年11月12日(土)、抜けるような蒼天のもと、50周年記念会として「50周年記念の集い」「新食堂棟落成祝賀式」「50周年記念懇親パーティー」「50周年記念セミナー」を開催いたしました。

ご来賓の皆様、当法人役員、会員の学校法人および企業の関係者、維持会員である千人会の皆様、その他これまで大学セミナーハウスを支えてくださった方々約200名の皆様にご参集いただき、50周年を祝うとともに、これからの50年に向けて大学セミナーハウスの新たな歩みへの決意を表明する記念会となりました。

50周年記念の集い

記念会は桜美林大学 藤木 美奈子 先生 司会のもとで進められ、講堂で行われた「50周年記念の集い」の冒頭では鈴木康司 大学セミナーハウス館長から開会の挨拶があり、文部科学省高等教育局長 常盤 豊 様からご丁寧かつ暖かいご祝辞をいただきました。



▲文部科学省高等教育局長 常盤 豊 様

続いて大学セミナーハウスの50年を迎えるスライドショーをご覧いただいた後、長年大学セミナーハウスに関わってこられた直木賞作家の篠田 節子 先生と学生時代からセミナーハウスを核として交流を続けてこられた3人のお仲間、関口和夫 様、椿阪 妙子 様、帯金 章郎 様との座談会が行われました。

座談会は「インターカレッジの思想」～特に共同セミナーを中心として～というテーマで、当時の大学共同セミナーによって繋がったネットワーク、そこでどのような影響を受けたかなどについて語り合っていました。その内容は、現在大学セミナーハウスを運営する役員およびスタッフに大学共同セミナーの原点を再認識させ、今後の方向性を示唆するものでもありました。



▲座談会「インターカレッジの思想」の様子

新食堂棟落成祝賀式



▲新食堂棟 Dining Hall やまゆり

午後1時から、新食堂棟前で、落成祝賀式を開催しました。



▲大学セミナーハウス 佐藤 東洋士 理事長

施主である大学セミナーハウス 佐藤 東洋士 理事長の挨拶に続いて、八王子市長の石森 孝志 様からご懇篤なるご祝辞をいただきました。また、当工事の設計並びに施工にあられた関係各社、相羽建設株式会社 代表取締役の相羽 健太郎 様、有限会社七月工房 代表取締役の嶋田 幸男 様、サイト一級建築士事務所の齊藤 祐子 様に大学セミナーハウスより感謝状と金一封の贈呈を行わせていただきました。



▲八王子市長 石森 孝志 様

テープカットは、ご来賓の石森 八王子市長、佐藤 理事長、鈴木館長、鷲山 評議員会議長、白井 常務理事により行われました。



▲Dining Hall やまゆり テープカットの様子

50周年記念懇親パーティー

落成祝賀式の後には新食堂棟 Dining Hall やまゆり に会場を移して懇親パーティーが開催されました。



▲八王子商工会議所会頭 田辺 隆一郎 様

開宴に先立って八王子商工会議所会頭の田辺 隆一郎 様からご丁寧なご祝辞をいただき、評議員会議長の鷲山 恭彦 先生の乾杯の音頭により開宴されました。



▲評議員会議長 鷲山 恭彦 先生の乾杯の様子



▲会場の様子



▲会場の様子

宴の中ほどでは中央大学音楽研究会による「大学セミナーハウス讃歌」の演奏と男声コーラス(バイオリン2、ヴィオラ1、チェロ1 合唱12人)が披露されました。



▲中央大学音楽研究会による「大学セミナーハウス讃歌」の演奏と男声コーラス

続いて白井 克彦 常務理事と前館長の荻上 紘一 理事からお祝いのスピーチをいただき、会場では和やかな交流が繰り広げられました。



▲白井 克彦 常務理事



▲前館長 荻上 紘一 理事

50周年記念セミナー

50周年記念セミナー「吉笑ゼミ。～自分らしく考える——宇宙と落語のコラボレーション——」は、再び会場を講堂に移しての開催でした。



▲立川流落語家 立川 吉笑 さん

立川流落語家の立川 吉笑 さんと国立天文台の長谷川 哲夫 教授によるコラボレーション企画で、長谷川先生に「宇宙の生命に科学でせまる」というテーマでご講演いただき、

吉笑さんが、その講演の内容を受け、即興で落語を作って披露してくださるというものでした。



▲立川流落語家 立川 吉笑 さんと国立天文台 長谷川 哲夫 教授

長谷川先生のご講演は難しい内容ながらも分かりやすく興味深い内容でご出席の皆様も聞き入っていましたが、それを受けての吉笑さんの創作落語はとても即興とは思えないほどおもしろく会場はその噺に引き込まれ、軽やかな笑いに包まれていました。

記念撮影

開館50周年記念会開催にあたりましては、ご来賓の皆様、当法人会員の皆様にはご多忙のところご出席いただき、誠にありがとうございました。



▲参加者全員で記念撮影

また、50周年記念事業を推進するにあたりましては、多くの法人とたくさんの方々から数々のご厚情を賜りました。法人並びに職員一同、心より感謝申し上げます。今後とも公益財団法人大学セミナーハウスにお力添えのほど、よろしくお願い申し上げます。

大学セミナーハウス 開館50周年 記念会

鈴木 康司 館長 挨拶



皆さま、お早うございます。本日のセミナーハウス50周年記念会にわざわざご参集くださいます、誠にありがとうございます。ご存知のように、当大学セミナーハウスは今から51年前、この野猿峠に土地を得て発足いたしました。世界的建築家ル・コルビュジエの愛弟子でおられた早稲田大学の吉阪隆正教授の設計によるユニークな建築によって形となったのであります。国際基督教大学の飯田宗一郎氏の発案により、東京大学をはじめとする都内の有力な国・公・私立大学13校が発起人校となり、「大学という機構の外にあって、大学教育と大学相互の交流に協力し、大学に足りないものを補うこと。教師と学生が向き合い、学生相互の接触による教育の復活を目指すこと。」、これがセミナーハウスの理念でありました。

この理念に賛同して、当法人を支えようとする数多くの大学が会員校としてお集まりくださったのが創立当時の状況でありました。それから51年、時代は激しく移り変わりましたが、セミナーハウスは会員校、非会員校を問わず、大学関係者に支えられて今日まで活動を続けております。もちろん当初の理念は持ち続け、かつ、時代の変化に適応すべく、こちらも柔軟に対処しつつ頑張っております。大学を対象とした活動だけでなく、高校から小学校までもが参加できる活動を考え、かつ、社会人や企業のご要望に応え、新人研修などにも門戸を開いて、社会の変化に対応できる組織に変わってまいりました。更に施設面でも講堂に防音工事を行って音楽関係者に喜ばれております。

それでも、会員校すべてが協力してセミナーハウスを支えてゆくという当初の理念を知る方々が減り、年月が経つにつれて、費用対効果のみを求めて、退会する大学も出てまいりました。我々としては残念であります。時代の変化を前提にすれば、この困難を乗り越えることが、セミナーハウス存続の必要条件であると心得て、館員一同、鋭意努力中であります。もちろん、設立からの理念をご理解くださって、変わらぬ、ご支援を与えてくださる会員校も数々あり、我々に勇気を与えてくださいます。また、この度東京都より大学セミナーハウス本館を東京都の歴史的建造物に指定したいとのご意向が示され、これもうれしい知らせとなりました。もとより、当セミナーハウスは大学生諸君を中心に、互いに切磋琢磨する場として続けております。会員校、非会員校を問わず、先生方と学生諸君が、この野猿峠の施設を利用し、大学の壁を越えて交流を重ねてくださることを、我々は心から願っております。また、最近非常に多くの留学生が諸外国から来ておりますが、この人たちを支援するために留学生会館を建設し、日本語の論文コンクールにも力を入れております。

半世紀を超えて存続する当セミナーハウスにとりましては、今日が更に今後の半世紀に向けての出発点だと考えております。そのためには、日頃より、我々一同に力を与えてくださいます、千人会をはじめとする支援者の方々に感謝の意を表するのが何よりと存じまして、今日の催しを考えました。まず、セミナーハウスの活動に以前よりご理解を賜ります、作家の篠田節子さまを中心とした記念座談会「インターカレッジの思想」を行い、その後、50周年を記念して新築しました食堂棟落成記念祝賀式、パーティーを開かせていただきます。さらに記念セミナーとして、国立天文台の長谷川哲夫教授の講演、次いで落語家の立川吉笑師匠が改めてこれをアレンジしなおし、「宇宙と落語のコラボレーション」としてご披露くださいます。50周年記念セミナーは、これ以前にも、6月に比較憲法学の第一人者樋口陽一東京大学名誉教授を中心とした「憲法を学問する」を開きましたが、今日のセミナーはその2として企画いたしました。どのようなコラボレーションが成立するのか、我々も興味津々たる思いであります。

昨日からの雨も早朝には止み、絶好の秋晴れとなりました。天もセミナーハウスを祝福してくれているようであります。

どうか皆様、今日一日ごゆっくりとお楽しみいただきたいと思います。ありがとうございました。



開館50周年記念事業について(報告)

1. 新食堂棟「DiningHallやまゆり」の竣工 (193,917,903円借入)

引渡:11月7日、落成祝賀式:11月12日、営業開始:11月25日
食堂棟建設に伴う工事および厨房設備・機器備品等の購入
新食堂棟の運営体制変更に伴い施設見学者への食事提供も可能→施設貸与費収入の増加(売り上げの5%)

2. 既存施設の大規模修繕

■平成26年度

(1)講堂防音工事

■平成27年度

(1)長期館B女性用浴室・パウダールームの整備・爆裂補修

■平成28年度

(1)長期館(屋上防水、外壁補修)、(2)長期館天窓改修工事、(3)講堂(屋上防水)、(4)国際館(キュービクル設置、ボイラー室改修)、(5)大学院セミナー室(屋上防水)

■平成29年度予定

(1)国際館(屋上防水)、(2)長期館(内装工事)

■平成29年度予定(4,880,000円 自己資金)

(1)留学生会館(外壁防水工事)、(2)図書館セミナー室(屋上防水)

3. 体験型研修プログラム(SPA)の本格稼働と利用対象の拡大

SPAプログラムの提供対象を教育関係機関限定から民間企業にまで拡大し、利用者の増加を図る。

4. 50周年記念セミナーの開催

(1)「憲法を学問する」(平成28年6月11日~12日実施 参加者数60名)

東京大学名誉教授 樋口陽一氏、東京大学教授 石川健治氏、日本大学大学院教授 蟻川恒正氏、首都大学東京教授 木村草太氏、東京大学教授 穴戸常寿氏による大学生・大学院生・社会人対象のセミナー

(2)「吉笑ゼミ。~自分らしく考える一宇宙と落語のコラボレーション~」(平成28年11月12日実施 参加者数129名)

立川流落語家立川吉笑さんと国立天文台長谷川哲夫教授によるコラボレーション企画

5. 50周年記念誌編集・発行

(A4版84ページ 発行日:平成28年11月12日)

開館50周年記念会参加者に記念品として配付、ホームページにPDFを掲載、千人会会員に送付

6. 開館50周年記念会の開催(平成28年11月12日)

法人ニュース

第21回理事会報告(平成28年度第2回)

1. 資金計画承認
2. 食堂棟建設に伴う追加担保設定承認
3. 公益財団法人大学セミナーハウス施設使用料金等規定の改正承認
4. 公益財団法人大学セミナーハウス中期(5か年)事業計画承認
5. 講堂プロジェクトのリース契約承認

平成28年12月9日開催

第21回(平成28年度第2回)理事会が、12月9日(金)午後4時から6時、桜美林大学四谷キャンパス(千駄ヶ谷)において理事10名(理事総数11名)の出席のもと開催され、全議案が承認された。

1. 資金計画について

平成28年度については、予算段階で次期繰越収支差額が△26,342,372円になっていたが、極力経費を抑えるなど見直しをおこなったうえで平成28年度推定決算を行い、それをベースに平成29年度についても推定決算を行った。今年度では、11月段階で非常に資金繰りが厳しくなることが明らかであったため3,000万円の融資を受けた。

3,000万円の借入により平成28年度だけでなく29年度の資金繰りをも安定することが可能となる。

2. 食堂棟建設に伴う追加担保設定について

新食堂棟建設に伴う追加の担保設定である。

建物、木造(一部鉄筋コンクリート造)地上1階、地下1階 572.05㎡を担保設定する。また、平成28年4月22日、八王子市より購入した本館下の土地(赤道)も担保として追加設定する。購入時に新食堂保存登記完了後、同時期に担保に追加してほしいとの依頼が金融機関からあったためである。

3. 公益財団法人大学セミナーハウス施設使用料金等規定の改正について

(実質の改正は平成18年の規定制定以来12年ぶり)

今年度と来年度(29年度)までに宿泊施設の大規模改修、Wi-Fi 環境の整備などサービス向上につながる設備投資・改修工事を行うことで宿泊環境を大きく改善することを前提に30年度から宿泊・研修室料金を改正し収益増に結び付けたいと思っている。

30年度としたのは、事前予約が会員の場合18か月前から可能となっているためである。

料金改正は宿泊料金については改正率を税別で5%程度(値上げ)とする。ただし研修室(セミナー室)利用料金については一般校・賛助会員、社会人を値下げとし、特に一般校・賛助会員については税別で15%値下げとした。

これは会員非会員間の料金格差を是正し、一般校・賛助会員、社会人の利用を促進したいという考えによるものである。

4. 公益財団法人大学セミナーハウス中期(5か年)事業計画について

大学セミナーハウスは、財政的には収益の中核である宿泊数の増加・安定をはかりながら、設立時の理念を具体的に実現し、「大学という機構の外にあって、大学教育並びに大学相互の交流に協力する」という使命を果たすことが求められている。

以下に中期事業計画を実現するための重点6項目をあげた。

- I. 宿泊利用者拡大施策の展開
- II. セミナー事業の充実
- III. 留学生支援事業の継続・充実
- IV. 広報活動の強化と連携・協力体制の構築
- V. 財政の健全化
- VI. 法人としての基盤整備

5. 講堂プロジェクターのリース契約について

新規に導入した講堂のプロジェクターは、有償貸出をしており、最新のAV機器接続が必須条件である。需要に対応できる機器を導入したため導入金額は、見積書の通り2,810,160円となる。7年リース契約としたためリース料は、月39,060円である。



会費をありがとうございました

2016年6月～2016年11月 (敬称略)

6月

椿弘次、安宅光雄、本江哲郎、松山正男 (神奈川大学名誉教授)、中村幸安、小倉充夫

7月

慶谷伸代、村瀬 旻、入江和生、上野芳康、黒田道雄、松尾秀雄、古本邦枝、色川大吉、松島 恵、橋本 智、水谷真智子、米村貞蔵、小池生夫、小池 滋、得田保雄

8月

布施涛雄、森川和久、麻生 幸 (千葉商科大学)、小川信子、金谷 憲、稲田 拓、栗原 裕 (愛知大学)、新井勝紘、佐藤東洋士、甲斐義幸、海老澤克之、太幡祐己、加藤幹夫、中山光雄、伊東意智郎、仙田 哲、瀬田裕司、柴田 誠、野崎昭弘、伊藤一郎、荒川由美子

9月

荻原洋太郎、村田光二 (一橋大学)、村上陽一郎、林 勲、井出久登、國岡昭夫、末松安晴、鈴木俊和、岩崎征人、東 壽太郎、小堀桂一郎

10月

篠崎啓助、木畑洋一、小和田恆、酢屋善元、宇野重昭

11月

山田耕司、熊川 忠、山岸 健、近藤 保、城 謙輔、福井憲彦

会員からのメッセージ

(敬称略)

- 今年で85才。今回を最後とします。**本江哲郎**
- 大学セミナーハウスの益々のご発展をお祈り致します。この30年、新しいセミナーハウスにお伺いしていませんので、再訪を楽しみにしています。**松山正男**
- ご清栄をお祈り申し上げます。去る5月27日に夫壽信が死去いたしました。生前いろいろお世話になりました。厚く御礼申し上げます。**慶谷伸代**
- 昨年まで春は大学セミナーハウスで、秋は長野県や群馬県の合宿施設で研究グループ合宿をしていました。並行して、年数回ずつ遠隔地出張する学術学会講演会・研究会類では、研究学生たちも現地周辺のビジネスホテル類を使わざるを得ず、社会人の標準方式とはいえ、飲み屋が最寄とはいえ、オジサン風で味気ないですね。今年の自グループ単独の研究合宿については、春も秋も大学セミナーハウスで研究合宿することに決め、若者たちも満足している様子です。東京都内とは到底思えない自然の緑豊かな閑静な環境だからですね。**上野芳康**
- 誕生日のカードありがとうございます。大学セミナーハウスの理想が時代の要請に応えられるよう益々のご発展をお祈りいたします。**松島 恵**
- 84才の誕生日を迎えました。まだ、自分では現役のつもりで英語教育の発展のために活動しています。JACETサマーセミナーで30回くらい毎年お世話になりました。思い出深いセミナーハウスが50周年記念式典をあげられるのは感無量です。式典には参加したいものだと思っています。**小池生夫**
- 大学セミナーハウスの益々の発展を祈ります。**得田保雄**

- 暑中御見舞申し上げます。久しく御無沙汰をしておりますが創設当時の志が受け継がれている事をうれしく存じます。ご活躍をお祈りします。**小川信子**
- ゼミ生が部活動で利用させていただきました。一層の発展を祈念しております。**栗原 裕**
- 八王子の自然景観の中で、国内・外の大学等の交流の場として貴重です。今後とも益々の発展を期待します。(年金生活で微力ながら応援します)**甲斐義幸**
- おかげ様で元気にすごしております。**荻原洋太郎**
- 八十歳を迎えました。担癌者ですが、まだ何とか仕事を重ねてをります。**村上陽一郎**
- 誕生日カードありがとうございます。懐かしい写真で学生時代を思い出します。一層のご発展を祈念いたします。**鈴木俊和**
- 今回の納入を最終回とし、千人会を退会させていただきますので、悪しからず御諒承ください。**小堀桂一郎**
- 11月12日の50周年の記念おめでとうございます。ぜひ出席したかったのですが急に島根県立大学の将来計画の企画会にその前日島根に居る必要が生じ、帰京がむつかしくなりました。でも私の86年時代史の中に大学セミナーハウス史を大きく取り込む予定です。**宇野重昭**
- 誕生日のお祝いの言葉をいただき、ありがとうございます。時代の変化に対応し得る研修施設として、良き役割を果たして行かれますように。**熊川 忠**
- 大学セミナーハウスの草創期の姿を思いうかべております。社会学合同セミナーについても思いが深まります。幸いな日々でした。**山岸 健**

※退会をお申し出いただいた場合でも、長い間のご支援に深く感謝し、お許しいただければニュース、記念会のご案内などをお送りさせていただきます。ご不要の場合はお手数ですが、ご連絡くださいますようお願い申し上げます。

千人会の皆様へ

～11月12日、開館50周年記念会へご来臨いただきました皆様、誠にありがとうございました。大学セミナーハウスの貴さを改めてお教えいただき、深く感謝申し上げます。遠方等でお会いすることがかなわなかった会員の皆様にも、「開館50周年記念誌—開かれた大学—」を送らせていただきました。ご覧いただければ幸いです。皆様のご厚情に報いるよう一層の発展に努力してまいりたいと存じます。～



▲大学セミナーハウス 油土模型 Scale1/50

セミナー事業

2016年度開催セミナーの報告

<大学生を対象としたセミナー>

セミナー名・テーマ	開催日	講師・企画(運営)委員	参加者(定員)
大学セミナーハウス開館50周年記念セミナー 憲法を学問する	6月11日(土)～12日(日)	樋口陽一(東京大学名誉教授・東北大学名誉教授)、石川健治(東京大学法学部教授)、蟻川恒正(日本大学大学院法務研究科教授)、木村草太(首都大学東京法学系教授)、宍戸常寿(東京大学法学部教授)	60名 (60名)
第5回EUセミナー EUの新たな試練 —英国離脱後のヨーロッパ—	9月23日(金)～25日(日)	渡邊啓貴(東京外国語大学大学院教授)**、田中素香(中央大学経済研究所客員研究員)**、太田瑞希子(亜細亜大学講師)、蓮見雄(立正大学教授)**、中西優美子(一橋大学大学院教授)**、福田耕治(早稲田大学政治経済学術院教授)**、押村高(青山学院大学教授)**、小久保康之(東洋英和女学院大学教授)**	90名 (70名)
大学セミナーハウス開館50周年記念セミナー 吉笑ゼミ。～自分らしく考える～ —宇宙と落語のコラボレーション—	11月12日(土)	立川吉笑(落語家)、長谷川哲夫(自然科学研究機構国立天文台・チリ観測所上席教授)	129名 (120名)

**印は企画委員と講師を兼ねる。

<大学教職員を対象としたセミナー>

セミナー名・テーマ	開催日	講師・企画(運営)委員	参加者(定員)
第6回新任教員研修セミナー	9月5日(月)～9月7日(水)	安岡高志(立命館大学教授)、有賀清一(桜美林大学講師)、村山光子(明星学苑法人本部企画部課長)、佐藤順子(セミナーハウス・ファシリテータ)、菊地滋夫(明星大学教授)**、荒木晶子(桜美林大学教授)**、江夏由樹(帝京大学教授)**、北原和夫(東京理科大学教授)*、史傑(電気通信大学教授)**	37名 (40名)
第33回大学職員セミナー 職員が拓く大学の未来 —大学職員に期待されるもの—	7月1日(土)	吉武博通(筑波大学大学院教授・大学研究センター長)、近藤清之(法政大学学務部長)*、青木加奈子(高崎経済大学研究グループ研究支援チーム)*、岩崎宏政(明治大学社会連携事務室事務長)*、大久保陽造(中央大学入学センター入学企画課課長)*、山本真一(桜美林大学大学院・大学アドミニストレーション研究科教授)*	55名 (50名)
第34回大学職員セミナー 大学職員の可能性—大学改革を牽引する職員を目指して—	11月25日(金)～11月26日(土)	後藤さゆり(共愛学園前橋国際大学副学長)、横田利久(関西国際大学事務局長)、近藤清之(法政大学学務部長)*、青木加奈子(高崎経済大学研究グループ研究支援チーム)*、岩崎宏政(明治大学社会連携事務室事務長)*、大久保陽造(中央大学入学センター入学企画課課長)*、山本真一(桜美林大学大学院・大学アドミニストレーション研究科教授)*	23名 (40名)

*印は企画委員、**印は企画委員と講師を兼ねる。

<教員免許状更新講習>

	開催日	講師	受講者(定員)
第15回教員免許状更新講習(対面式)	8月1日(月)～7日(日)	薦澤元晴(早稲田大学大学院講師)、谷川建司(早稲田大学大学院客員教授)、粟野由美(東京造形大学教授)、齊藤祐子(前橋工科大学非常勤講師)、荒木晶子(桜美林大学教授)、原田淳(立教大学講師)	212名 (各30～50名)
第16回教員免許状更新講習(対面式)	12月26日(月)～27日(日)	粟野由美(東京造形大学教授)、齊藤祐子(前橋工科大学非常勤講師)	17名 (各30名)
平成28年度eラーニングによる教員免許状更新講習	2016年4月16日(土)～ 2017年3月31日(金)	薦澤元晴(早稲田大学大学院講師)、加藤彰彦(沖縄大学名誉教授)、村瀬幸治(「人間と性」教育研究協議会幹事)、大和久勝(特別二一ズ学会・日本生活指導研究所・全国生活指導研究会所属)、有賀清一(桜美林大学講師)	(必修2,000名、 選択必修各2,000名、 選択各2,000名)

2016年度 開催セミナーの報告

■第33回 大学職員セミナー

主題：職員が拓く大学の未来 —大学職員に期待されるもの—

期間：7月1日(金)(日帰り)

会場：法政大学市ヶ谷キャンパス

対象：大学職員

講師：吉武 博通(筑波大学大学院ビジネス科学研究科教授)

参加者数：55名

第33回大学職員セミナーは、平成28年7月1日(金)、法政大学市ヶ谷キャンパスを会場に、吉武博通氏を講師に招き、日帰りセミナーとして開催された。2時間のセミナー会場は、全国から熱心な参加者の熱気にあふれ、講演後の懇親会にまで講師の吉武氏を囲んでの質疑応答が続けられた。



▲吉武博通氏により、大学職員が果たす具体的・実践的役割が紹介された。

■第6回 新任教員研修セミナー

期間：9月5日(月)～7日(水)(2泊3日)

会場：大学セミナーハウス

対象：国・公・私立大学で授業を担当する新任教員(年齢不問)

講師：安岡 高志(立命館大学教育開発支援機構教授)

佐藤 順子(大学セミナーハウス所属SPAファシリテーター)

有賀 清一(桜美林大学ビジネスマネジメント学群専任講師)

村上 光子(明星学苑法人本部企画部課長)

参加者数：37名

今回の2泊3日のセミナーは、参加者と講師の交流を通してアクティブラーニングを体験的に学び、それぞれの教育実践につなげることを目的として、全国の国・公・私立大学の30～40代を中心とする教員が参加した。

初日は、「アクティブラーニングに向けた関係性作り」と題し、講師の佐藤順子氏により屋内・外で心と体のウォーミングアップが行われ、参加者同士の協力関係を構築することができた。2日目の立命館大学の安岡高志氏による「自己点検・評価(PDCAサイクル)」の講演では、ご自身の経験に基づく授業展開方法や成績評価に対する新たな視点が紹介された。同じく2日目の「アクティブラーニング講座」では、「問題意識の改善と授業改善」(史委員)、「多様な学習方法を前提とした効果的な授業運営方法」(荒木委員)をテーマにグループワークが行われた。3日目の「シンポジウム」で、有賀清一氏からは「学生の参加を引き出す学習環境構築の取り組みPart2」と題し、電子書籍を使った授業方法の紹介がされた。江夏委員からは「学習支援に果たす図書館の役割」と題し、自身の大学での図書館の活用が紹介された。村山氏からは「対応が困難な学生理解のために——合理的配慮を踏まえて——」と題し、大学として組織的に対応困難な学生に対する取り組み事例が紹介された。

参加者からは、「アクティブラーニングの内容はもちろん、多彩な内容で期待以上に充実した研修だった。授業で活用できそうなテクニックから、効果的に導入できそうな工夫まで、盛り多い有意義なセミナーだった」など満足できるセミナーだったとの声が寄せられた。



▲一気に仲間作りが構築された初日のアクティブラーニング。

■第5回 EUセミナー

主題：EUの新たな試練 —英国のEU離脱後のヨーロッパ—

期間：9月23日(金)～25日(日)(2泊3日)

会場：大学セミナーハウス

対象：大学生

講師：フランチェスコ・フィニ(駐日欧州連合代表部公使/副代表)

参加者数：90名



▲2日目の特別講演で「EUの今後」について講演されるフランチェスコ・フィニ氏

今回のEUセミナーは、EUの現状を複眼的に考察し、EUがどのように新たな試みを行おうとしているのかを議論することがねらいだった。「EU経済と連帯」、「EUの域内格差と地域政策」、「EUの移民・難民—シェンゲン圏と法—」、「EU市民社会の連帯とリスク」、「テロと排外主義」の5つの分科会に分かれて議論したが、セミナーの参加者は、事前に分科会ごとに提示された課題を調べて、参考文献を読んでおくことになっていた。

セミナーは、分科会講師によるパネル・ディスカッションからスタートし、2日目のEU副代表のフランチェスコ・フィニ氏による特別講演を挟んで、最終日の全体会まで2泊3日にわたる活発な討論が展開された。

パネル・ディスカッションでは、全参加者が他の分科会の課題も理解したうえで各分科会の課題を議論できるよう、5つに分かれた分科会の講師によるパネル討論が行われた。

2日目の午後に行われた特別講演「EUの現状と課題」は、分科会で浮かび上がったさまざまな疑問を駐日代表部の副代表に直接投げかけることができる貴重な機会となった。

最終日の総括討論では、学生たちによって3日間にわたって行われた各分科会の討論内容が簡潔に要約され、他の分科会の学生とそれぞれの課題が共有され、「さまざまな考えをもつ方々と議論ができたので参加してよかった」との感想がよせられ、EUに関する多くの知識・情報を獲得できたばかりか、他大学の学生と語り合えたことはこれからの学びに大きな刺激になった。

■開館50周年記念セミナー

主題：吉笑ゼミ。～自分らしく考える～ —宇宙と落語のコラボレーション—

期間：11月12日(土)

会場：大学セミナーハウス

対象：大学生・社会人

講師：立川吉笑(落語家)

長谷川哲夫(自然科学研究機構国立天文台・チリ観測所上席教授)

参加者数：129名

6月に開催された「憲法を学問する」とともに大学セミナーハウス開館50周年を記念したセミナーが、11月12日(土)の「50周年記念会」当日のプログラムの一つとして開催された。会場となった講堂は、緋毛氈と座布団の高座がしつらえられ寄席囃子が流れるなか、記念会参加者と公募参加者が満席となった。

参加者からは、「普段なかなか聞くことのできない天文学のお話と、楽しい落語とのコラボレーションが楽しかった」、「先生のご研究の成果を身近に感じる事ができ、宇宙と生命の神秘に感動しました」、「お見事です。まさか原子を擬人化するとは…」、「長谷川先生と吉笑さんのトークが最高に面白かったです!」などの声が寄せられた。

セミナーの内容は、講師・長谷川氏による国立天文台の「国立天文台ニュース」から転載させていただいた次の囲み記事および、本誌2頁～4頁の「開館50周年記念会開催報告」をご覧ください。

「宇宙と落語のコラボレーション 吉笑ゼミ ～自分らしく考える～」

長谷川哲夫(国立天文台チリ観測所上席教授)



2016年11月12日(土曜日)に東京・八王子の大学セミナーハウスで、落語と天文学の講義のコラボという珍しいイベントが開かれました。

大学セミナーハウスという「大地に楔を打ち込む」本館をはじめとする独創的な建物群(建築家吉阪隆正氏とU研究室の作品)が有名ですが、「教師と学生が寝食をともにしながら議

論し学ぶ場」と「国公立の壁を超えたネットワーク構築の場」を創るという飯田宗一郎氏の先進的な理念のもとで、日本の高等教育、人材育成に大きく貢献してきました。その開館50周年記念会を締めくくるイベントとして、標記のセミナーは一般の参加者を含め約130名の聴衆を集めて行われました。

吉笑ゼミは全体で4部構成。①まず落語家の立川吉笑さんが自己紹介を兼ねて一席。②続いて長谷川が「宇宙の生命に科学でせまる」と題して講義。10分の休憩をはさんで③吉笑さんが再び登場、講義の内容を解釈しレポート提出よろしく即興落語を演じる。④最後は二人で対談しながら会場の質問を受けて終了…という段取りです。吉笑さんは立川談笑師匠のもとで研鑽する二つ目。擬古典の創作落語を得意としていて、これまでも放送作家や若手物理学者、DJやラップミュージシャン、実況アナウンサーなどを招いて年数回吉笑ゼミを開いており、今回が8回目。立川流らしく落語の現代的意味をアピールしつつチャレンジングに攻めている若手です(詳しくは吉笑さんの近著「現在落語論」毎日新聞出版をご覧ください)。

さて、長谷川の講義②では、私たちの体をつくっている炭素や酸素、カルシウム、鉄などの原子が、すべて星の核融合反応で残った「星の灰」であることを説明してから、太陽系外惑星の話題に移り、アルマ望遠鏡でみた惑星誕生領域の最新の研究成果を紹介しました。それを受けて、吉笑さんの即興落語③では、吉笑さんの体の中のさまざまな原子が擬人化されて登場。体内滞在15年という古株の炭素原子を中心に、ダイエットされて去って行った原子の話や、新入りの原子とのやり取りが展開します。人の体に入る前は何だったかの自慢比べでは、ある原子は吉笑さんの体に入る前はドアストッパーだったとか。ドアストッパーの原子と人間の原子ではどちらが「えらい」かなど、次々繰り出される話に場内は爆笑の連続となりました。

研究の話を聴くというと、どうしても聴く側にある種「受け身」の「構え」ができてしまいがちです。でも「吉笑ゼミ」では、落語で笑っているうちに場はずっかり打ち解けて、頭がノーガード状態になって「自分らしく考える」ノリで話を聴いていただけようです。参加者のアンケートをみても「大変おもしろかった!!!」と満足いただけたようでした。研究者から伝えたい大事なメッセージをみなさんに届ける方法として、大きな可能性と手応えを感じた会でした。

(「国立天文台ニュース 2017年01号」より)

■第34回 大学職員セミナー

主題：大学職員の可能性 —大学改革を牽引する職員を目指して—

期間：11月25日(金)～26日(土)(1泊2日)

会場：大学セミナーハウス

対象：大学職員(教員可)

講師：後藤さゆり(共愛学園前橋国際大学副学長)

横田利久(関西国際大学事務局長)

参加者数：23名

初日の後藤氏の講演は、小規模大学ながら様々な先進的な大学改革に取り組んでいる状況が紹介され、その後のグループディスカッションに直結する示唆にあふれる内容であった。そのため、参加者からは「もっとお聴きしたい内容で、時間が足りないのが残念」との意見も寄せられた。

初日と二日目に4グループに分かれて行われた「グループディスカッション」では、いくつかの前提条件が与えられたうえで仮想大学による「文科省採択事業を活用した教育改革の提案」が課題とされた。参加者からは、「短い時間の中で仕上げなくてはいけなかったのが大変でしたが、とても有意義でした」、「課題に取り組むにあたり、様々な部署の職員が異なる視点をもって発言することで、普段なら考えないような事についてまで、視野を広げて考える機会を得られました」などの声が寄せられた。

二日目最終の横田氏による講演は、自身の大学職員としての経験をもとに職員としての姿勢や存在意義が本音で語られた。参加者からは、「旧態然とした体制を攻める姿勢でどんどん変えられたことを伺い、その熱さの原動力を知りたいと思うと同時に、自分もそのような熱い気持ちを持った職員であろうと思いました。自分の仕事ぶりを見透かされ、気合い注入をしていただいた思いです」、「思い、覚悟の大切さ、失敗して良いという事を学びました」、「目からウロコが落ちる内容でした」などの声が寄せられた。



▲11月25日(金)、参加者全員で記念撮影

SPAの報告(2016年7月1日～11月30日)



SPAプログラムを6回(170名)、体験会を2回(67名)、次の通り実施した。

1.SPAプログラム

■創価大学寒河江ゼミ(33名、大学生と教員)は、ゼミのメンバー同士がコミュニケーションを促進し、まとまりのあるゼミにしたいとの目標を設定し、1日プログラムを実施した。

■北里大学小野高志親和会(16名、大学生と教員)は、アイスホッケー部員の和を高めることを目標に設定し、1日プログラムを実施した。

■桜美林大学有賀ゼミ(10名、大学生と教員)は、ゼミ生同士のコミュニケーションを活発にし、将来企業で活躍できる社会人基礎力を育成したいとの目標を設定し、1日プログラムを実施した。

■第6回新任教員研修セミナー(主催セミナー、37名)では、参加教員にSPAプログラムの一部を体験してもらうことでアクティブ・ラーニングを実践していくうえでの必要な要素を考えること、そして全国から参加して下さった初対面の方々の「学びの場」を創ることをねらいとして半日プログラムを実施した。

■日本大学池野ゼミ(12名、大学生)は、ゼミ生の仲間づくり、チャレンジ精神の育成を目標に設定し、半日プログラムを実施した。

■立正大学学生保険委員会(42名、大学生)は、新メンバーのコミュニケーションと委員会としてのチーム作りをするために3つのグループに分かれて半日のプログラムを実施した。

■桜美林大学谷内ゼミ(20名、大学生と教員)は、日頃は3年生と4年生に分かれた授業をしているために交流がないので、その溝を埋め、仲間づくり、コミュニケーション促進を目標に設定し、1日プログラムを実施した。

2.体験会

■オカコー薬品(営業担当者42名)は3つのグループに分かれて、ジャイアントソーソー、川渡り、モホークウォークを体験した。

■栄光教会(25名、小学生と大人)は室内で全員一緒にプログラムを体験した。

宿泊事業報告

◆平成28年度上期の宿泊利用者延べ人数 19,298人

平成28年度、上期の宿泊利用者延べ人数は19,298人で、前年度が18,140人でしたので、1,158人の増加でした。

利用者は全ての区分で増加しました。(内訳:会員校1.3%、一般校13.9%、社会人7.4%)

今年度より会員校の利用以外に、中高校生の勉強合宿、音楽関係、スポーツ関係、海外からの短期留学生の宿泊利用を積極的に受注しました。

実績は中高校生の勉強合宿:1,271人、音楽関係:694人、スポーツ関係:989人、短期留学生:649人となりました。

◆ 区分別利用状況

平成28年度上期

宿泊延利用人数全体の占める区分別の構成比は表1に示す通りです。

<表1> 宿泊延べ人数表

年度	平成28年度(上期)		平成27年度(上期)	
	宿泊延人数	構成比	宿泊延人数	構成比
会員校	9,410	48.7%	9,286	51.2%
一般校	6,649	34.5%	5,838	32.2%
社会人	3,239	16.8%	3,016	16.6%
合計	19,298	100.0%	18,140	100.0%

利用区分比率は会員校で前年比で▲2.5ポイント、一般校で+2.3ポイント、社会人で+0.2ポイントになりました。教育関係の占める割合は83.3%となりました。

◆ 宿泊の年間稼働率は31.2%

本年度の営業日数は360日で、宿泊室(宿泊定員279人)の年間平均稼働率は31.2%でした。尚、ご参考までに本年度利用の多かった協力会員をご紹介します。

<表2> 協力会員利用トップ10

● 宿泊延べ人数

1	首都大学東京	1,405
2	中央大学	736
3	創価大学	555
4	早稲田大学	436
5	東洋大学	414
6	法政大学	390
7	明治大学	382
8	上智大学	282
9	桜美林大学	270
10	大妻女子大学	201

● 利用件数

1	首都大学東京	34
2	中央大学	19
3	明治大学	12
4	法政大学	11
5	早稲田大学	10
6	青山学院大学	9
7	上智大学	8
8	創価大学	7
9	東洋大学	6
	桜美林大学	6
	大妻女子大学	6
	帝京大学	6
	電気通信大学	6
10	東京外国語大学	5
	駒澤大学	5
	一橋大学	5

最新の宿泊プランは、
ホームページをご覧ください。

お客様の声

セミナーハウスでは、ご利用の皆様にご協力をお願いしております。

○**技術士 根来 譲二 様** (大阪市、大阪市立大学にて緑地行政に携わり、環境と建築について専門家の目から大学セミナーハウスを擁する多摩丘陵の自然と街の変遷に関心を寄せて、長年ご利用をいただいております)

一面緑の海原だった向かいの多摩丘陵が高層住宅の林となり、夜は光の海となりましたが、このセミナーハウスも維持管理上でしょうが、随分樹木が少なくなった様に思います。

当初の吉阪隆正さんの構想とはだいぶ異なって来たと感じます。良い意味でも悪い意味でも日本が豊かになり、快適さと利便性を追求して、さらに私学では自前のセミナーハウスを持つ様になりました。こんな中で、この大学セミナーハウスの経営は大変だろうと推察いたします。

今日も中央大学に行って、我々の大学時代とは全く別世界の施設群とサービスに驚きました。豊かで便利で快適になるという事は、一方で大切な何かを徐々に失っているのかも知れません。

このセミナーハウスは“思想は高潔に生活は簡素に”を貫いてほしいと思います。

○**駒澤大学経済学部 姉齒ゼミ 姉齒 曉 教授** (毎年ゼミ合宿にご利用いただいております)

早朝の唱和の件に素早く対応して頂きありがとうございました。助かりました。

私自身、これからも利用するにあたり、学生たちがご迷惑をおかけすることもあろうかと思いますが、お互い困ったことは困ると言い、注意し合えばと思います。それもおそらく“研修”なのだと思っております。

○**国際基督教大学ICU祭実行委員会 川村 育大 様** (例年3月にご利用、2017年もご予約をいただいております)

大学セミナーハウスの職員の方々のおかげで、とても良い合宿を運営することができました。度重なる予約変更などに柔軟に対応していただき、本当に助かりました。ありがとうございました。 また来年も同じ時期に次の世代の者がお世話になるとは思いますが、その際にも何卒よろしく願いいたします。本当にありがとうございました。

大学セミナーハウスより

メッセージありがとうございます。都心に近く、会議室や宿泊室も整った研修施設も増える中、大学セミナーハウスでしか過ごせない時間、経験とはどういふものかを考え、それをご利用の皆様にご提供するよう努力し続けることが大学セミナーハウスの伝統を守り、存在価値を高めていくものと考えております。意欲、発見、癒し、新しい友人…それぞれのご利用者が自ら体得された「お土産」をお持ち帰りいただくお手伝いを心がけてまいります。



去る11月12日、かねてから企画した大学セミナーハウス50周年記念会を、滞りなく挙げる事ができました。

前夜からの雨も上がり、快晴のもと、日頃からセミナーハウスを支えてくださる皆様に多数ご参加いただき、「50周年記念の集い」「新食堂棟落成祝賀式」「50周年記念懇親パーティー」「50周年記念セミナー(その2)」と予定通りに進行して、すべて無事に終わりました。館員一同の努力もさることながら、ご協力いただいたすべての方々に館長として心から御礼申し上げます。

創立当時の隆盛には到底及びませんし、セミナーハウスを取り巻く環境の激変による財政上の厳しさは言うまでもありませんが、それでも、先人がこの野猿峠の地にユニークなハウス群を建てて始めた、大学教育を補完し、かつさらに充実したものを目指す当初の理想には変わりありません。我々はこの理想を現代によみがえらせ、かつ新しい時代に即応して発展させようと、今後も努力を重ねてゆきたいと念じています。

当日の報告に戻りましょう。不思議なご縁を感じましたのは、来賓としてご挨拶された文部科学省高等教育局長の常盤豊さまが、かつてセミナーハウス20周年の折に係長として種々ご尽力くださったと述べられたことで、世の中は思わない形でご縁が繋がってゆくものと感じ入った次第です。

「50周年記念の集い」の目玉は以前から当ハウスに関係の深い、作家で評議員の篠田節子さまと、学生時代から交流を深めてこられた3人のお仲間による「インターカレッジの思想」と題した座談会でした。それぞれ別々の環境に育った若者が、この地のセミナーを通じて培った絆によってその後の社会生活にどれほど大きな影響を受けたかというもので、今後の当セミナーハウスが目指すべき大学共同セミナーへの貴重な指針となりました。

終了後、故吉阪教授設計による本館前広場での記念撮影、続いて新築なった新食堂前の落成祝賀式から記念パーティーと進み、当ハウス佐藤理事長の謝辞につづき、八王子市長の石森孝志さま、八王子商工会議所会頭の田辺隆一郎さまほか、ご来賓の方々のご祝辞をいただきました。

挿尾を飾ったのは「50周年記念セミナー(その2)」として行われた、「吉笑ゼミ—自分らしく考える—宇宙と落語のコラボレーション」で、立川流落語家の立川吉笑さんと国立天文台教授の長谷川哲夫教授お二人によるものでした。まず、長谷川先生のお話は、恒星や惑星の誕生を電波で探ってゆくという極めて高度な学術研究を、われわれ門外漢にもわかるようにかみ砕いてくださったもので、続いてこの講演を受けた吉笑さんがすぐさま即興落語として面白おかしく演じてくださいました。最後にお二人の掛け合い対談も行われ、会場は和気あいあいの雰囲気になってお開きとなりました。

この記念セミナーは、去る6月12日に行われた樋口陽一先生を中心とした「憲法を学問する」について「その2」と銘打ったものであります。セミナーハウスは今後ともこのように硬軟取り混ぜたセミナーを主催してまいります。それは決して質を落とすのではなく、創立当時の理念を生かしながら同時に未来を切り開いてゆこうとするものです。

今後とも大学人を中心としつつ、社会人、高校から小学校まで、幅広い皆さまを対象に頑張っております。どうぞよろしく願い申し上げます。



▲開館50周年記念会開会の挨拶 鈴木 館長



セミナーハウス・ニュース No.191

発行 = 公益財団法人 大学セミナーハウス
2016年12月28日発行

発行人 = 鈴木康司 発行部数 = 3,500部

編集 = 大学セミナーハウス 総務グループ

制作 = ユニバーサルプロジェクト株式会社